

カルシユの足跡を追って

◇22◇

若松 秀俊

一八九三明治二十〇 かもしれない。 年二月十九日、ドイツ・ ドレスデン近郊のプラゼ ヴィッツで父ヘルマン、 母ルイーゼの間に三人姉 弟の末子として生まれた フリッツ・カルシユは、 一九七一(昭和四十六) 年十一月十八日にカッセ ルで没した。

今年にはフリッツ生誕百 十年に当たり、その意味 ところで、カルシユの 調査が進展して生徒との 足跡と生徒との交流を世 エ・ヒノードが手元に集ま

親類と縁者

(上)

の人に知らせたい。しか し、このカルシユ顕彰に 心血を注いでくれた岡崎 道夫、遠藤捨雄、宮田正 信、白石磯、田島康弘は ったころ、全国紙をはじめ 松江中央新報など新聞 各紙が顕彰進展を激励と ともに取り上げてくれ

忘れ得ぬ「ふるさと」

が牧畜業を営み、父ヘル マンはエッシェドルフで 生まれ、母方の 姓がクニスであることし 調査にも奔走できた。た 多忙でなければ、面談 各紙が顕彰進展を激励と ともに取り上げてくれ

畔の夕映え」出版や旧制 松江高校同窓会の支援に つながるなど、カルシユ フリッツの父ヘルマン は、どういった経緯なの かは不明だが、ドレスデ には関心を持つ人が増えて きた。このような経緯か



ツヴィンガー宮殿よりエルベ河を望む

模な食肉業の経営に携わ ったこともあったとい う。 巨大な ロシユヴィッツ鉄橋の建 設に従事する労働者に食 は乳児の時に死亡した 事を留意したり、サンド が、次姉フリーデルはオ ウィッチを売るなどし ーストリアで結婚し、三 の歳月のほとんどを日本 で、大きな利益を上げた。 人の子供に恵まれた。そ と採国で過ごしたので、 隣人と共同で建てた石造 ある。 一九三九年とその翌年 に、フリッツの長女メヒ も父のインシャルH・K テルトは、祖母ルイーゼ が見られる。ヘルマン所 にドレスデンのアパート 有の主要部分は、一九〇 一年に彼が肺炎で亡くな った間もなく人手にわた ったという。 優雅なバロック調の芸術 都市である。かつて夢の イムマート(故郷)を ように美しかったドレス ンは、残念ながら第二 フリッツはまさに「生ま 次世界大戦で受けた戦禍 からのいまだに完全に復興 しておらず、煤(すす)の 汚れた建物は今も痛々 しい様相のまま。地元 (東京医科歯科大学大 学院教授) 街を限りなく愛していた

録を解説すれば分かるか 交流を記録にとどめ得な 合わせがあり、拙著『湖 の皆様と紙面を通してお の広場に面する店で大規 ン郊外のプラゼヴィッツ 時には、盲腸から腹膜炎 情もあって、完全復興は 起こし生命の危機に陥 簡単ではないという。か つて、このザクセンとバ イエルンはドイツで最も 裕福な王国であったの に、残念なことである。 メヒテルトはこれまで この芸術の街には格別深 い思いがないようであ

文中敬称略